

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（放射線技術学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】（2018-2020年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> </ol> <p>責任者:藤野明俊（放射線技術学科長） 分担者:武藤裕衣（学科教務担当） 事務局:教務課</p>	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1.. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生教育用に準備された最新医療機器を使い、臨床現場に則した学内実習を実施し教育内容を充実化する。そのために、計画的な機器の更新・管理運用を行う。2018年度には、超音波診断装置2台と<math>\alpha</math>・<math>\beta</math>線測定用シンチレーションサーベイメータの更新を計画している。</li> <li>本学科では、全国約300施設という日本最大規模の臨床実習指導施設と連携している。学生が希望する地域での質の高い臨床実習を実現するとともに、実習期間中のトラブルを防ぐため、改善点として以下を計画する。           <ol style="list-style-type: none"> <li>① 1.2年向けの「病院見学マニュアル」を作成し、全員対象の説明会を開催する。</li> <li>② 3年4月時に臨床実習希望施設調査を行うとともに教員との協議面談等を経て臨床実習指導施設を仮決定する</li> <li>③ 3年前期学内実習において、学内教員によりOSCE様の確認試験を導入する。</li> <li>④ 臨床実習中、毎日の適度な目標設定とポジティブフィードバックおよびリフレクションを促す独自の「臨床実習ノート（ポートフォリオ）」を作成し、効果的な経験学習を促進する。</li> <li>⑤ 臨床実習前学内実習において、医療安全や診療放射線技師の知識向上に資する講義およびグループワークを行う。 臨床実習報告会を開催し、アクティブラーニングを実践する。</li> </ol> </li> </ul>
2. 学習支援と向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次より担任制を導入し、個別面談体制を整えているが、成績下位者について、4月に行う面談では学科内で情報共有を行い、クラス担任のみならず教科担当教員からの学習支援を実施する。</li> <li>欠席が目立つ学生に対して、授業担当教員（学科教員）と担任教員が情報共有連絡し、学生指導につなげる取り組みを継続する。</li> <li>1年後期より開講される専門基礎科目・専門科目において、本学科が目指す専門資格（診療放射線技師国家試験、第一種放射線取扱主任者）の取得を意識した講義を行う。</li> <li>ガイダンス時に学生に「カリキュラムマップ」に成績を記録するよう指導するとともに、面談等で担任が確認を行い、学習支援を行う。</li> </ul>

3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<ul style="list-style-type: none"><li>・国家試験合格率の目標値は95%、入学者あたりの合格率は70%。</li><li>・入学者あたり合格率の目標を達成するため、特に国家試験対象科目の授業において早くから意識付けをし、学習意欲を向上させる。</li><li>・国家試験合格率の目標を達成するために4年進級時に診療放射線技師免許を有している教員が中心となって、国家試験対策を行いその情報を共有し、思いやりある姿勢で教育指導を行う。合格率をより向上させるための改善点として以下を計画する。<ul style="list-style-type: none"><li>① 成績不振者に対し、模擬試験終了後、学生自身が作成した解説書をクラス担任が確認し教育指導する。</li><li>② 新傾向や応用問題への対応力を向上するため、年3回実施される業者模擬試験について、学生が受験するよう教育指導する。この他、合格率の目標達成に向けた以下の教育指導を継続する。<ul style="list-style-type: none"><li>① 学科内に国家試験対策委員会を設置し、毎月会議を開催する。</li><li>② 4年後期、週一日、国試対策講義を開講する。</li><li>③ 年8回、学内模擬試験を実施する（学内教員が問題作成し、試験後に対策講義を開催する）。</li><li>④ 模擬試験後の担任個人面談を実施し、生活状況の改善や国家試験学習支援（個人指導）を行う。</li><li>⑤ 模擬試験成績不振者への保護者への成績通知を行う。</li><li>⑥ 過年度4年生等に対し、現役4年生が臨床実習のため学内不在期間に月一回の模擬試験（実力試験）を実施する。</li><li>⑦ 過年度4年生に対して、教員居室の近くでの自習室を設定するとともに、担任は担当学生の学習進捗状況を面談またはSUMS-P0により把握する。毎月開催する国家試験対策会議にて指導状況を共有し、学習支援を促す。</li></ul></li><li>10月以降模擬試験や9月以降国家試験対策講義（放射線科学特論）では、座席を模擬試験成績順（成績下位者から順に前方）に指定席を設定する。</li></ul></li></ul>
--------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 第2期中期計画及び第2-1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（医療栄養学科・管理栄養学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり 【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 【中期計画】（2018-2020年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築への取り組み</li> <li>学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> </ol> <p>責任者：熊取厚志（医療栄養学科長） 分担者：太田伸生（管理栄養学専攻長）、三浦俊宏（管理栄養学専攻教務委員） 事務局：教務課</p>	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 医療栄養学科内専攻合同演習授業の構築への取り組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム(NST)等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施するための準備に着手する。</li> <li>学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。</li> <li>学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能とする。</li> </ol>
2. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>学年進行に応じた学生の学習に関するアウトカムを確認するためのアチーブメントテストを導入する。</li> <li>臨地実習のより有意義な実施に向けた支援を強化する。そのために、受け入れ施設とのより濃密な事前協議を図る一方、派遣学生の習熟度の事前評価と不足学生への教育補完を考慮する。</li> <li>実習試験の導入と拡大 2017年度に導入した、実習の評価法としてのレポートに加えて実習試験実施を継続拡大し、学生の自発的学習態度の涵養に努める。</li> <li>学科内に教務委員会を立ち上げ、関連する課題を専攻を超えて共有しながら解決を図る。</li> </ol>

3. 学習支援と向学心の高揚	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の将来キャリアプランニングの充実を目的として、卒業生を含む学内外の人を招いて、モチベーション向上に繋がるような授業形式の懇話会を実施する。</li> <li>2. 4年生以前の段階から順次、国家試験問題を供覧し、修学期間の最低達成目標に関して学生の自覚を促す。</li> <li>3. 国家試験対策学習支援 国家試験対策として模擬試験を行っているが、成績不振者（約10名～15名）について補講を行い、また特に成績が不振の学生については、保護者、担任、専攻長、国家試験対策担当教員による面談を行って、問題点、改善点等指導する活動を継続する。</li> <li>4. 早期導入教育 1年生底力教育の管理栄養学専攻分において、病院、福祉施設等での管理栄養士の仕事を見学し、向学心の高揚を目指す。</li> <li>5. リメディアル教育 近年の受験者数の減少から、今後入学者の学力レベル低下が予想される。多くの1年生学生に早期にリメディアル教育が必要と思われるが、e-learningも活用して、学生にリメディアル教育の参加を促し、出席状況、学修到達度を1年生担任教員が把握する。</li> </ol>
4. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理栄養士国家試験合格率の目標は100%とする。また、入学者あたりの合格率は90%を目標とする。これを達成するため、2017年度より開始した4年生前期の総合演習Ⅱの国家試験対策演習への変更及び医療栄養学特別演習（4年通年）における国家試験対策を継続強化する。</li> <li>2. 4年生に特化して進めていた国家試験対策を低学年の段階から開始する体制を整える。国家試験問題のうち既習範囲を3年生にも課して、自らの到達度を確認させ、さらに学生の自発的な国家試験学習を促し、また支援を行う。</li> </ol>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（医療栄養学科・臨床検査学専攻）	
【基本方針:1】	学科教育の特色と魅力づくり
【基本方針:2】	国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導
【中期計画】（2018-2020 年度）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理栄養学専攻と臨床検査学専攻の合同演習授業の構築</li> <li>2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> </ol>
責任者：熊取厚志（医療栄養学科長／臨床検査学専攻長）	
分担者：吉子健一（臨床検査学専攻教務委員）	
事務局：教務課	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 管理栄養学専攻との合同演習授業の構築	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 学生が将来の医療人としての見識を広める試みとして、管理栄養学専攻と臨床検査学専攻からなる特徴を生かし、管理栄養士と臨床検査技師が共に参加する多職種によるチーム医療である栄養サポートチーム（NST）等を題材にして、両専攻の学生と教員が合同で実施する演習授業を、木曜日1限の活用等により実施するための準備に着手する。</li> <li>2. 学科内の二専攻学生の相互交流を活発にするため、様々な交歓会を企画する。</li> <li>3. 学科内の両専攻学生が、相互に他の専攻の授業を聴講することを可能とする。</li> </ol>
2. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各学年に、国家試験に関連する基本的事項を中心に、それまでに学習した内容を総合的に問う、アチーブメントテスト（学習達成度確認試験）を導入する。</li> <li>2. 第1期に引き継ぎ、IR推進室の分析報告に基づき、指導方法の改革・改善に向けた検討を行う。</li> <li>3. 第1期における検討・準備の下、本年度より実施される検体採取業務に関する講義・実習に関して、状況をモニタリングし検討を行う。2019年度より新たに始まる再生医療技術学（3年次）、および2020年度より新たに始まる再生医療技術学実習（4年次）の実施に向けた教</li> </ol>

	<p>育内容や担当教員の具体的な検討を行う。</p> <p>4. 前項の「1. 管理栄養学専攻との合同演習授業の構築」は、本項にも含まれる。</p> <p>5. 三大阶段に関する知識や意欲が乏しいので、第1期に引き継ぎ、前年度から始まった臨床検査医学演習（R-CPCを含む）の実施方法の改善に向けて、授業評価を参考にして検討を行う。</p> <p>6. 学科内に教務委員会を立ち上げ、関連する課題を専攻を超えて共有しながら解決を図る。</p>
3. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>1. 第1期における検討・準備の下、1年前期の医療人底力実践（基礎Ⅰ）での病院見学に加え、OB・OGとの意見交換の場を設け臨床検査技師としての将来像をイメージさせる。</p> <p>2. 木1の時間等を利用して、学内の教員や外部講師（各種現場で働く臨床検査技師など）による講演を中心とした、キャリアプランニング授業の構築について検討を行う。</p> <p>3. 第1期に引き継ぎ、1～3年の後期終了時に行っている成績不振者に対する二者ないし三者面談で、IR推進室の分析報告を活用し目的意識・学習意欲を高めると共に、学習方法の指導・支援を行う。</p> <p>4. 第1期に引き継ぎ、3年生後期の臨床検査医学演習の授業に三重県医学検査学会の参加を組み入れて、向学心を高める。</p>
4. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>臨床検査技師国家試験の現役受験者の合格率を100%に、入学者（進路変更を除く）あたりの合格率を90%に設定し、以下の取り組みを行う。</p> <p>1. 成績不振の学生に対しては、補講や面談といった人手による手厚いケアを行い、モチベーションを含めて成績の向上を図る。</p> <p>2. 成績中位以上の学生に対しては、覚えた知識をアウトプットする訓練を行うツールとして、eラーニングシステムの構築を進める。</p>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（理学療法学科）	
【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり	
【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	
【中期計画】（2018-2020年度）	
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善 2. 学習支援と向学心の高揚 3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	
責任者：畠中泰彦（理学療法学科長） 分担者： 事務局：教務課	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	初年次、基礎専門科目（解剖学、生理学、運動学）の到達目標を明示し、定期的に到達度をチェック、学生にフィードバックする。2019年度に向け、e-learningの導入を検討する。 ドロップアウトが懸念される学生には、個別指導と同時に保護者にも通知する。 指定規則改定に対応するカリキュラム変更を準備する。 科目「ロボットリハビリテーション演習」の充実を図る。
2. 学習支援と向学心の高揚	1、2年次に臨床見学、障がい者スポーツイベント、学会参加を通じ、将来の職域、リハビリテーションへの理解を深めさせる。同時に学生自身の将来像の具体化、動機付けを図る。 上級生の実習見学、モデル参加を通じて、基礎医学の重要性、理学療法士の資質への理解を深めさせる。
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	国家試験合格率の目標値は90%、入学者あたりの合格率は80%とする。 定期的な模試の実施と成績不良者に対するフィードバックにより、学生自身に国家試験合格に必要な能力と現状のギャップを認識させる。成績不良者の多くは学習計画、実行、振り返り、再計画の過程全てが不十分なため、全ての過程で助言、指導する。 近年、成績不良者以外にも国家試験で不合格者がみられる。極度の緊張のため、実力が発揮できないため、メンタルトレーニング指導を実施する。

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（医療福祉学科・医療福祉学専攻）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】（2018-2020年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践力を備えたソーシャルワーカー養成のための教育内容の充実と教育方法の更なる改善</li> <li>効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> </ol> <p>責任者：貴島日出見（医療福祉学科長／医療福祉学専攻長） 分担者： 事務局：教務課</p>	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法の更なる改善	<p>医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、スクールソーシャルワーカー、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センターや行政機関のソーシャルワーカーとして活動する人材を育成するため以下のこと取り組む。</p> <p>①病気や障害を抱える本人や家族をはじめ、地域の生活困窮者や社会的に孤立している人々を支援するため、アセスメントからモニタリングに至る一連の相談援助プロセスを理解しPDCAサイクルに即して実践できるように、相談援助に関わる講義科目と演習科目の連携を強化し、知識と技術の一体化を図る。</p> <p>②地域社会とのつながりを重視し、鈴鹿市人権センター、BBS会、てんかん協会やパーキンソン病等の当事者会、桜の森白子ホームなどの社会福祉施設におけるボランティア活動等を通して、福祉ニーズを肌で感じ取るとともに、地域福祉計画や高齢者・障害者・児童などの各分野の福祉計画の立案および評価に参画するなどして、福祉実践の現場と学問とが融合した環境でソーシャルワーカーの展開が学べるようにする。</p> <p>③ロールプレイや事例検討などを多く取り入れ、アセスメント力とコーディネート力を身に付けたソーシャルワーカーとしての実践力を高めるため、わかりやすい関係資料を学生の到達度に応じて提示するなど、きめ細やかな対応をしていく。</p> <p>④ゼミ単位でアクティブラーニングによる社会貢献活動に取り組み、学生の興味の幅を広げるとともに主体的な取り組みと行動力を養う。</p> <p>⑤障害学生に対する教育環境の改善に取り組み、共生社会の実現に貢献するソーシャルワーカーの養成を目指す。</p>

2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み	<p>学生の学力の差を縮め、理解力に応じた丁寧な学習支援を目指し以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①国家資格の指定科目に関して、講義科目についてはテキストを用いた予習を推奨し、演習科目については振り返りの復習を強化する。</li> <li>②先輩や社会人で実際にソーシャルワーカーとして勤務している人の話や、施設や社会福祉協議会などの相談援助実習やフィールドワークを通して、福祉現場やソーシャルワークへの興味関心を引き出し、早くから対人援助職のイメージ化を図る。</li> <li>③専門職団体（社会福祉士会・精神保健福祉士協会・医療ソーシャルワーカー協会等）との関わりを深め、多様化し変化していく福祉ニーズをいち早く把握し対応していく実際のソーシャルワーカーの姿を学べるようにする。</li> <li>④地域の貧困やネグレクト、権利侵害や虐待に対する敏感な感覚を養い、ボランティアやインフォーマルサービスなどをネットワーク化していく体験を増やす。</li> <li>⑤ICTの活用や学生との個別面談により、学習方法の相談にのり就学上の課題解決に取り組むとともに、成績不良者については学習意欲の向上にむけて保護者との連携を強化する。</li> </ul>
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>本学科卒業の第1期生から10期生までの10年間の社会福祉士国家試験の平均合格率は57.4%（全国27.0%）、精神保健福祉士は本学79.9%（全国60.8%）であり、卒業者531名のうち卒業時点での社会福祉士合格者は189名（35.6%）、精神保健福祉士合格者は73名（13.7%）となっており、全国的にも高水準の合格率となっている。今後もこの水準を維持するため以下のことに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉士国家試験合格率の目標値を60%、精神保健福祉士合格率の目標値を80%とする。</li> <li>②入学者あたりの社会福祉士の合格者を40%、精神保健福祉士の合格者を20%とする。</li> <li>③全国レベルの模擬試験5回と学内での模擬試験4回を3年次から行ない、その結果をデータ化し個別面談において学習成果の確認に活かす。</li> <li>④学内教員全員で国家試験対策講座を分担するとともに、東京アカデミーによる補足講座を4年次に実施する。</li> <li>⑤学生の到達状況について保護者へ通知し、到達度が低く学習意欲のない者には三者面談を実施するなど、保護者の協力を要請する。</li> <li>⑥学生の自主的な国家試験の過去問題への取り組みを促すとともに、日頃から指定科目の授業をしっかりと学習し幅広い知識の獲得に務めるように絶えず呼びかけていく。</li> </ul>

## 第2期中期計画及び第2-1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（医療福祉学科・臨床心理学専攻）	
【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり	【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 【中期計画】（2018-2020年度） 基本方針に基づきここにご記入ください。
責任者：貴島日出見（医療福祉学科長） 分担者：今井暁式（臨床心理学専攻長） 事務局：教務課	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 学部教育と大学院教育の連結。特に学部教育について	<p>公認心理師・臨床心理士養成を主とした本専攻は、大学院生に、大学院修了時における大学院生の姿を明確にする必要があります。それには、臨床実践に適った援助姿勢と技法を身につけることと、そのバックボーンとなる様々な理論を学ぶことです。</p> <p>まず学部段階では、当事者の生物・心理・社会的視点から理解するための理論を学び、学部段階で身につけるべき実践能力を身につける必要があります。</p> <p>以上のことについて、本学ではどの程度まで理解させ、実践させるのかについて、専攻内の教員間で確認します。</p>
2. 学部教員と大学院教育の連結。 特に大学院教育について。	<p>前述したことは、大学院修了時における大学院生の姿を明確にする必要があります。</p> <p>現在、大学院生はこころの相談室において、教員・カウンセラーによる具体的な指導のもとで、臨床実践を学び始めました。</p> <p>大学院修了時に、院生がどこまで成長するのかについて検討します。</p>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（鍼灸サイエンス学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】（2018-2020年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生および保護者の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善</li> <li>2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み</li> <li>3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</li> </ol> <p>責任者：山本晃久（鍼灸サイエンス学科長） 分担者：高木久代、西村 甲、浦田 繁、廖 世新、鈴木 聰、本田達朗、水野海騰、張 文平、長岡伸征、高木 健 事務局：教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1 キャリア教育の充実のため、推進体制を構築。</p> <p>①専門教育のため新設した「鍼灸への誘い」の時間数を増加し、鍼灸師の職業観や将来像の涵養を目標として教授する。</p> <p>②キャリア教育講演を年1回開催する。</p> <p>③キャリアプランを作成させ、個人面談での助言・指導に活かす。</p> <p>2 臨床実習の量の拡充と質の向上のため、下記見学実習を実施。</p> <p>①桜の森白子ホーム。</p> <p>②三重大学医学部附属病院麻酔科（統合医療・鍼灸外来）。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>1 個人面談</p> <p>担任による反復した面談を実施し、常に学習状態、生活状況などの情報を収集しながら学生とのコミュニケーションを欠かさないようにする。成績不良者に対する学習改善だけでなく、自主性や向上心を持てるように手厚い指導を継続する。</p> <p>2 意欲向上・交流促進のため、レクリエーションを企画</p> <p>球技大会、取穴大会（ツボの位置や暗唱を競い合う）を実施。</p>
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>1 目標</p> <p>合格率 100%</p> <p>入学者あたりの合格率 80% を目標とする。</p> <p>2 指導内容</p> <p>教員が、学生全員を合格に導く熱意と気概を持ち、下記指導を徹底する。</p> <p>①1年次より国家試験への危機感を高め、出題傾向を意識した授業を実施する。</p> <p>②関連科目の期末試験は、国試過去問題とオリジナル問題で評</p>

	<p>価する。</p> <p>③対策授業の指導を強化し、要点文集を段階的に暗記させ、全て暗記するまで確認試験を繰り返す。</p> <p>④成績不振者を月1回の模擬試験の結果から抽出し、対策授業とは別に補講を実施する。補講では毎回、課題を暗記させ、口頭試問によりアウトプットさせる。これを反復学習することにより、習慣と知識を定着させる。</p> <p>⑤モチベーション維持・向上のために、定期試験後や補習終了後に個別面談を行い、学生を叱咤激励しながら国家試験まで一緒に取り組んでいく。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（臨床工学科）	
【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり	
【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	
【中期計画】（2018-2020年度） 1. 学生および社会の期待に応えるための教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善 2. 効果的な学習支援と向学心の高揚への取り組み 3. 各資格試験の合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	
責任者：野原敦（臨床工学科長） 分担者： 事務局：教務課	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学科内教育・教務委員を選任し、教育・教務業務の強化を図る。</li> <li>●2017年度から開講した4年前期・後期に開講される学科全教員による特別演習科目の充実を図る。</li> <li>●学修サポートシステムの教員活用を進める。</li> <li>●臨床実習前に院内コミュニケーションや実習報告書作成、実習時の日常生活について補講を行う。</li> </ul>
2. 学習支援と向学心の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療現場や企業で活躍する本学科卒業生による現場経験と資格取得やその学習法についてのプレゼンテーションを行い、学生の将来像構築とモチベーションの向上を図る。</li> <li>●GPAに基づき学習指導計画を図る。</li> <li>●臨床実習（期間中を含む）に向けて、学習およびメンタル面のサポートを行う。</li> <li>●ボランティア活動情報を提供する。</li> </ul>
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新卒学生の100%合格を目指し、入学者あたりの合格率の目標設定として90%を目指す。</li> <li>●合格ラインへの到達に向け、国家試験対策補講出席を促し、頻出問題のポイントを指導し、必須基本問題を繰り返し行う。</li> <li>●国家試験サポートソフトウェアの教員活用を進める。</li> <li>●国家試験全国統一模擬試験の3年次からの受験を促し、早期より国家試験への意識を高める。</li> </ul>
4. 学生確保の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オープンキャンパスでの在校生の参加をすすめ、本学臨床工学科パンフレットの配布及び臨床工学技士業務についてのDVDや頒布品の配布を行う。</li> <li>●高校への出張授業や大学紹介イベントへの参加をすすめる。</li> <li>●臨床工学技士紹介イベントへの大学学科紹介ブースでの参加をすすめる。</li> </ul>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野12：各学科教育の特色（医用情報工学科）	
【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり	【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導 【中期計画】（2018-2020年度） 基本方針に基づきここにご記入ください。
責任者：山本皓二（医用情報工学科長） 分担者： 事務局：教務課	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善	<p>1. 学後の早い段階で個々の学生の特徴を把握し、その情報を全教員で共有することにより2年次以降に始まる個々の学生の個性を伸ばす少人数グループ教育へと繋げる。</p> <p>2. 卒業生などの外部講師による講演、上位学年による各種の成果発表会への下位学年の参加など、自分の将来についての具体像を学生に気付かせる機会をさらに充実させる。</p>
2. 学習支援と向学心の高揚	<p>1. 少人数グループ教育を通じてどんなことでも気軽に相談できる教師と学生間の相互信頼関係を築く。</p> <p>2. 個々の学生には学生の特質に合わせた目標を設定し、その目標に対する行動計画を立てさせる。</p> <p>3. 学生が作成した行動計画が計画倒れとならないような企画を工夫する。</p>
3. 合格率及び入学者あたりの合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導	<p>1. 医用情報工学科が対象とする資格試験は種類が多く、分野も多岐にわたる。資格に関して、学生全員が必ず一つは自分に適した資格を取得した状態で卒業することを学科としての目標としている。</p> <p>2. 分野が多岐にわたることを受けて、学科として次の教育指導の戦術を講じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に、入学後の早い段階で個々の学生の特徴を把握することで教員側の意識を発揚させる。</li> <li>・2年次に授業の一環として学生に自身の強み、弱みを把握させることを試み、より適した少人数教育グループへと導く。</li> <li>・その後は、「学習支援と向学心の高揚」で述べた内容に繋げる。</li> </ul>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（薬学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】（2018-2020 年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の更なる改善と国試合格率の改善</li> <li>2. 学生支援体制を強化する</li> <li>3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める</li> </ol>	
<p>責任者:佐藤英介（薬学科長）</p> <p>分担者:山本秀孝（学生部委員会）、飯田彰彦（教務部委員会）、田口博明（国試委員会）</p> <p>事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法・教授方法の改善と国試合格率の改善	<p>低学年から高学年までの学部学生に対する教育体制を充実することにより、個々の学生の学力を向上させ、薬剤師国家試験の高い合格率を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の充実のため、薬学教育センターを設置し、必要な教員の配置を行い、リメディアル教育の実施や成績不振学生への支援を強化して、薬剤師国家試験合格へつなげる。</li> <li>・教務部委員会において現行カリキュラムを見直して、改善する。</li> <li>・薬剤師国家試験の合格基準点が見直され、合格点が変動することから、目標合格率等を絶対として示すのは困難である。従って、対受験者合格率は全国私大平均を超えること、対入学者合格率はそれに近づくことを目標とする。</li> </ul>
2. 学生支援体制を強化する	<p>学習活動支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新設する薬学教育センターによる、留年生、学業成績不振学生、卒業延期学生への支援強化を行う。</li> <li>・リメディアル教育の実施：新入学生に対する、入学時確認試験成績不振科目（化学、物理、生物）について医療人底力教育センターと協力してe-ラーニングを導入する。</li> <li>・学習環境の整備：自習室の開放とオフィスアワーの設定を推進する。</li> </ul> <p>学生の学習意欲向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションの充実：新入生、在校生オリエンテーションを行う。</li> <li>・担任制度の充実：担任面談を定期的に行う。また、担任を介した学</li> </ul>

	<p>生および保護者からの意見集約を行う)        ・学生主体によるイベント開催への支援を行う。</p> <p>学生生活支援を拡充させる        ・健康支援（定期健康診断）、経済的支援（奨学金の紹介）、生活環境の整備（学生生活調査を利用する）を行う。</p> <p>就職支援活動の充実        ・インターシップの紹介、就職ガイダンス、企業説明会、などを開催し、就職支援を行う。</p>
3. 研究活動に関する中期目標を定め、特色をもつ研究を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『私立大学研究プランディング事業』について、引き続き採択を目指し申請する。</li> <li>・科学研究費助成事業に継続的に申請し、選定された先進的な研究課題に積極的に取り組み、その成果を社会に還元するサイクルを有効に機能させる。</li> <li>・大学ホームページ、フェイスブックに研究に関する情報発信をし、さらに三重県の企業との連携構築を行い、より多くの外部資金が獲得できるようにする。</li> </ul>

## 第2期中期計画及び第2－1期の活動計画

重点分野 12：各学科教育の特色（看護学科）	
<p>【基本方針:1】 学科教育の特色と魅力づくり</p> <p>【基本方針:2】 国家資格試験または認定資格試験の合格率の目標設定とその達成に向けた教育指導</p> <p>【中期計画】（2018-2020 年度）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容の充実と教育方法等の改善</li> <li>2. 将来の専門職者としての向学心の育成</li> <li>3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実</li> </ol>	
<p>責任者:杉本陽子（看護学科長）</p> <p>分担者:國分真佐代（教務委員長）、郷良淳子（学生委員長）</p> <p>事務局:教務課</p>	
2018年度活動計画	
対応する中期計画項目	活動計画内容
1. 教育内容の充実と教育方法等の改善	<p>①三重県を網羅した臨地実習が適切に実施できる施設等を確保し、地域性や文化的背景、個人の価値観をふまえた看護実践力を育成する。</p> <p>◆1年次看護体験実習、2年次基礎看護学実習、3・4年次各看護学臨地実習、4年次統合実習について、病院・施設関係者と連携し、実習目的・目標に照らし合わせた実習を行い、看護実践力を育成する。</p> <p>②これまでの4年間の教育の課題を明らかにし、カリキュラム改正に取り組む。</p> <p>◆2020年度入学生適用の新カリキュラムを2018年度中に策定する。</p> <p>③助産師課程の開設を検討し、三重県における助産師の育成に貢献する。</p> <p>◆2020年度新カリキュラムの中に助産師課程教育科目を開講することを検討する。</p>
2. 将来の専門職者としての向学心の育成	<p>①1年次の早期に臨床等で専門の資格を持って活躍する看護職者と接する機会をつくり、将来のビジョンを描く手がかりとする。</p> <p>◆2018年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて企画する。</p> <p>②初期教育の一環として接遇教育を取り入れ、専門職にふさわしい態度等を学ぶ機会をつくる。</p> <p>◆臨地実習直前のマナー講座を1-3年生対象に実施し、学生の看護に対するモチベーションを高め、実習施設での看護師からの学生の評価を補完する効果を期待する。</p> <p>③在校生の上級生・下級生の交流の機会をもち、クラスや在校生の一体感・連帯感を育むとともに、4年間の学修について予測性をもって進めることができるようにする。</p> <p>◆2018年度医療人底力実践基礎Ⅰ学科プログラムにおいて、1年次と4年次が交流する企画を実施する。</p> <p>◆2018年度後期ガイダンス終了後に「3・4年生臨地実習等情報交換会」を企画し、3年生と4年生が交流する機会をつくる。</p>

3. 看護師・保健師国家試験合格率の向上とその達成に向けた教育指導の充実

- ①1年次から4年次まで、各学年の学修内容にあわせた国家試験対策を計画する。
- ◆2018年度1年生は9回の解剖生理学の学修会、2年生は9回の病態治療の学修会、3年生は10回の自己学修会と11回の学修会、4年生は約50回のセミナーとハイリスクグループへの16回のセミナーを実施する。
  - ◆2018年度外部講師によるセミナーを1年生から段階的、系統的に実施し、低学年からの系統的な知識の習得と学修習の促進を図るとともに、成績不振者への対応を低学年から行う。
  - ◆4年次模試の結果から、確実に国家試験に合格できる水準に達成できるよう、10月以降にハイリスクグループへの学修支援を強化する。
- ②国家試験対策を充実したものとするための予算を確保するとともに、保健師国家試験対策の強化を図り、合格率を向上させる。
- ◆2018年度外部講師予算を確保し、国家試験対策を充実させる。
  - ◆2018年度保健師国家試験模試を段階的・定期的に実施し、出題の50%を占める保健統計、疫学、関係法規について、外部講師による集中セミナーを開講する。
- ③学科の対策だけでなく、学生の自己学習時間や場所の確保等、環境整備をする。
- ◆2018年度臨地実習スケジュールをもとに自己学修時間の確保時期を明確にして学生と共有する。
  - ◆担任教員による学修状況の確認と学修指導を行う。
  - ◆自己学修スペースの学修環境を整える。